「第六回日韓神学者学術会議」について

聖学院大学総合研究所所長　髙橋義文

去る二〇一六年一一月一八日、聖学院大学と韓国長老会神学大学校（ソウル）による、「第六回日韓神学者学術会議――日韓神学シンポジウム」が開催されました。これは、二〇〇八年、両大学の間に結ばれた、学術交流「神学者学術会議」協定によるものです。開催地を隔年でそれぞれの大学とするとの方針に従い、今年は本学で行われることとなりました。

聖学院大学総合研究所では、今年度、研究組織を改訂しましたが、その際、この学術交流を、三つの研究センターの一つである「文化総合研究センター」傘下の研究会（研究代表　阿久戸光晴、清水正之）に位置付け、センターの主要な研究活動といたしました。現在、本研究所で行われている貴重な国際的学術交流です。

今回は、テーマを「告解と赦しと和解の神学形成」として、日本側から江藤直純教授（ルーテル学院大学学長）、韓国側からユン・チョルホ（尹哲昊）教授が主題講演を担当され、前者の講演については、ペク・チュンヒョン（白忠鉉）助教授、後者については、関根清三本学大学院特任教授が、それぞれコメントを担当されました。

その内容については、本報告を熟読いただきたいと思いますが、両国をめぐる微妙な国際情勢の中、この課題と取り組むことは容易ではなかったはずです。しかし、講演とコメントを担当された先生方は、細心の注意を払いつつ、神学

的、聖書学的、倫理学的、また哲学的な視点から事柄を深めるとともに、主題に含蓄されるさまざまな広がりにも私たちの注意を促してくださいました。また、和解への現実的な提案もしてくださいました。一方、講演とコメントの間にはさらなる議論を必要とする「緊張」も孕んでいましたが、それによって、シンポジウムはかえって一層魅力的なものになりました。

神学者学術会議・神学シンポジウムは、回を重ねてまいりましたが、その積み重ねの成果と言ってよいでしょうか、いままでにない率直な意見の交換ができたように思われます。

講演された先生方、コメントを担当してくださった先生方に深甚の感謝を申し上げます。合わせて、司会を担当された菊地順、柳田洋夫の両先生、原稿の翻訳、当日の通訳に卓越した能力を発揮してご奉仕くださったナグネ（洛雲海）長老会神学大学助教授、ペク・ジョンファン（白正煥）日本基督教団用賀教会牧師に厚く御礼申し上げます。

また、シンポジウムの準備と開催に実務的な貢献をしてくださった、準備室の松本周先生、研究所の木下元部長、辻本修副部長はじめスタッフの方々に感謝いたします。

来年度は、ソウルで開かれますが、さらに緊密でしかも緊張感のある、実り多い研究となるよう祈ります。